



オレンターノPRESS

©NORICO/Orentano

L.Freire DF 2 フレイレ	Henik MF 5 ヘニキ	Kazuya OKAMURA DF 6 岡村 和哉	Toshiya MURA 監督 三浦 俊也	Yoshihiro SHOJI MF 10 庄司 悦大	Junya TANAKA FW 15 田中 順也	Tomoya UGAJIN MF 30 宇賀神 友弥
-------------------------------------	---------------------------------	--	--	--	---	---

Akira YAMAUCHI 32 MF 山内 彰	Ryoto ISHIZAKA 33 MF 石坂 亮人	Kosuke FUJIOKA 38 FW 藤岡 浩介	Junki HATA 39 FW 畑 潤基	Daisuke KIKUCHI 44 MF 菊池 大介	Charles NDUKA 45 FW ソドカ チャールス
--	---	---	--	--	--

2022シーズン新加入

CONTENTS

INTERVIEW

監督 三浦 俊也 ヘッドコーチ 横山 雄次 統括本部長 山道 守彦

2022 SEASON J3新規参戦チーム紹介

2022 SEASON FC GIFU TOP TEAM PLAYERS MY PLAY STYLE

GGG(トリプルジー)5期メンバー



ペナルティエリアへの進入回数を

増やしつつ失点をしない戦いを



監督 三浦 俊也

J2昇格に向け、年間のプランは。

過去10年くらいのJ1、J2、J3の傾向を振り返って2位以内に入るためにどれだけの成績が必要か。J1からいわきFCが昇格、コロナ禍の規定で4チームが降格してきて昨シーズンより多い18チームで競うこともあってより厳しいシーズンになることは間違いないと思います。年間の勝点を試算したところ、63に到達するとはほぼ75パーセントの確率で昇格の可能性がある。65だと80パーセント、68だと98パーセントというデータが出ています。個人的にはデータを信じていますので、これに則って年間のプランを考えていくと、一試合平均勝点2——実際に1試合で与えられる勝点は勝利の3か引き分けの1なので2ということはないのですが——平均的に2を獲っていけば100パーセント近い確率でJ2昇格を達成出来るということになります。1・8・5でも70パーセント以上の確率です。まずはこの平均2から1・8・5の間以上のところで勝点を推移させていきたい。首位グループと大きく離れずに、ですね。そうしたひとつの目安があります。

また昇格をしているチームにはその1シーズンで10試合負けなしとか10連勝といったフェイズがあります。そういうピークをつくる傾向があると、これまでのデータからは読み取れます。

1シーズンを通してずっといい状態が続くということはありませんので、好成績を挙げるにはそういった時期をどれだけ長く続けられるかにかかっていると思います。

スタートダッシュが重要か。

あくまでもそれは理想で、誰しもがそうなればいいとは思っているものですが、けれども理想通りにはいかないのがこの世界です。たとえば昨年のJ2を制覇したジュビロ磐田は開幕から第5節までが2勝3敗でスタートダッシュはしていません。しかしその後、モンテディオ山形に二回敗れただけでそのほかには黒星はなかった。そのように序盤で躓いても上がってくるチームはあります。J1であればACLに出場するチームはどうしても開幕直後は出遅れがちです。それでもそこから優勝チームは抜けたりするので、スタートダッシュが優勝のバターンとは、一概には言えない気がします。

仰るように磐田は山形にいわゆるシーズンダブルを喰らったが、敗戦が第6節以降は山形だけだったから致命傷にならなかった。しかし通常、1シーズンに2回同じチームに敗れる事態は避けたいのでは。

それは言えると思います。勝利数が全試合数の半分の17だとちょっと心許ない。それ以上のところを目指したいですし、確かにシーズンダブルを喰らいたくないとも言えると思います。下位になっているチームから勝点4か6は獲っていないといけない。昨年の京都サンガF.C.は上位3チームにはほとんど勝っていないんですよ。だけども昇格を果たしたというのは、結果的に下位には落としていなかった、と。狙って出来るものではないですけど、そういう現実があります。

昨年のFC岐阜は取りこぼしが多かった。不安定要因を取り除いて負けを引き分けに持っていくことも重要なのでは。

よくない試合を引き分けに持っていくたり、先制された試合を追いついたりという試合運びは非常に価値が高いと思います。それから先制した試合に関しては確実に勝点3を稼いでいくと、当たり前前の作業が必要になる気がします。

新体制発表記者会見でも「主導権をとる」と仰っていたが、前半のうちに、または交代のある60分、70分までに点差を詰められればいいのか……。

理想論としてはそう思いますけれど、結局は、負けているときに投入して勝点を獲れる選手と、勝っていて最後を守りきろうかというときに投入出来る選手、両方を揃えなければいけないと思います。

戦い方に関してはプレシーズンに選手を見ながら最適なものを決めていくのか。

ひとつにはポジションですね。その選手にとって最適なポジションを見つけ、最適な組み合わせをつくる。そして「主導権をとる」という言い方をしましたけれど、いちばん大事なものはペナルティエ

チームが勝つために何をなすべきかを

主体的に考えてやってみよう

YUJI YOKOYAMA



ヘッドコーチ 横山 雄次

横山さんの、FC岐阜でのヘッドコーチとしての役割とは。

私は昨シーズンまでACL長野バレー口の監督を務めていました。ですから、直接FC岐阜と対戦しましたし、そこを含めてJ3について知っている、J3に慣れているということは言えると思います。J3各チーム、選手、監督の特長、あるいは戦い方についてのサポートが出来、監督の三浦(俊也)さんからも「その経験を活かしてほしい」と言われています。もちろんトレーニングのサポートも求められました。

三浦さんは勝つためにやることをはっきりさせるのが上手い監督だと思っています。三浦さんが目指しているサッカーをしっかり理解して、それを選手に伝えトレーニングさせる。それが第一のポイントかなと思います。三浦さんは「主導権を握る」という話をしましたけれども、それは勝つためにと考えての話だと思っていますので、そのポイントを間違わないように選手に伝えていきたいと思っています。

実際に練習を見学するとかかなり忙しいようですが、練習場での具体的な働きは。

今年に関して言うとフィジカルコーチという立場のコーチがいなくて幅広く、たとえばウォーミングアップを引っ張っていったりとか、全体練習を二手に分けたときに二つのトレーニングセッションを受け持ったりということもしています。その場合は、三浦さんがグラウンドの右側のコートで指導していたら、その左側半分が指導していたりという光景になります。日常的にもトレーナーの話を開いて得た選手の状態などを監督に伝えたり、やることはコーチの仕事全般ですね。ヘッドコーチの立場で、監督と一緒にいろいろな仕事をしていくことになると思います。トレーニングを三浦さんと分担する。フィジカルトレーニングのときには私が笛を吹いたりもします。

練習をしている間はセッションが弛まず進行し、頭と手が休んでいない印象だが。

そうですね。ふだん練習でやっていることが試合に現れると考えるとき、例えばですけど練習と練習の合間の切り替えの意識、練習の雰囲気、そういうところが大事になってくると思います。

様々なスタッフや選手の間で、概してヘッドコーチはそうした雰囲気づくりに対して重要なポジションに思える。ヘッドコーチという役職を改めて説明する必要があるか。

チームによっていろいろなタイプのヘッドコーチがいると思っています。常に監督と一緒にいて、あまり練習の細かいところに入っていない、そのようにヘッドコーチが監督と同じ立場で動くチームもあります。それに対して今年のFC岐阜はコーチングスタッフが少ないので、三浦さんと私でほとんど練習をやっていく。三浦さん自身も(見るだけでなく)実際に行動することが多いですね。今年に関して言えば私は三浦さんと共に、常に動いている。そういう体制かなと思っています。

手持ち無沙汰のスタッフは存在しない印象がある。小さな工場のようにも思える。

誰しもが関わっているというが、選手にもしっかり要求する分、スタッフもしっかりハードワークする。少ない人数のスタッフですけれども、一人ひとりがしっかりチームのために動く。それこそ、トレーニング中に水を運ぶこともしますし、そういうことをヘッドコーチだからやらない、とかではなく、むしろ積極的にやっていく。そのような立ち位置かなと思います。

三浦さんが年間を通しての勝点計算を明示しているが、やはり監督はそのように計画を立てていくものなのか。

そのシーズンのチーム数や過去の勝点を見て、だいたいどのくらいの成績であれば目標を達成出来るのか。年間のカレンダーを単一位で細かく区切り、何試合のう何試合勝てば目標とするペースで進められるということも計算として出すことはあります。ただ三浦監督はいわゆる解説者の仕事をしているので、そういうデータ分析のところを緻密におこなっている経験もありますので、それは私達も学びたいと思っています(ニヤヤ)。

アの進入回数を増やすということ。あるいはセットプレーの数を増やして勝ちの確率を高める。日本ではどうしても攻撃的なサッカーをする点が多いが失点も多いということになりやすい。ペップ(バルデオラ)が率いていたバルサやバイエルンやシテイというのはちゃんと点を獲るけど失点もしない、ああいう戦い方はまだ日本人には出来ていない。唯一、川崎フロンターレがやっているかな……という感じなので、稀なケースかなと思います。

攻め込んでいるからこそ、そこを奪い返し、攻め直すことも出来る。相手ゴールの近くでプレーすることが重要か。

理想のサッカーはそういうことになると思います。ただ、ちゃんとそのリスク管理がされていないと、失点のバターンはカウター、クロスによるものが多いですから、しっかり攻守のバランスをとらないといけない、とも思っています。

前がかりになると自分たちの背後や自陣ゴール前を空けて失点することになりがち。その発生確率を下げていくことも大事か。

そうですね、そこは選手としての経験値とクオリティ、サッカーを読む力という個人の能力に最後はかかってくると思いますけれど、ある程度の決まりはあるなかでリスク管理をやっていくということですね。

今回補強した経験値が高い選手たちでも失敗をしないように、チームのやり方として自陣ゴール前をセーフティに保つやり方を整えていくか。

そのとおりですね。攻撃の考え方、守備の考え方、攻守のバランスのとおり方、これらが整えられていないと偏ったチームになってしまいますので、それだと昇格は難しくなってくる。得点ペースは1試合平均1・5以上、失点は平均0・8以下というところから外さないためにこういう進め方を決めるかを決めていくことになると思います。

そのような大きなプランのもとで、試合ごとの戦術や戦い方、ベンチ枠の使い方を含めたメンバー選考などについては横山さんの考えも反映されるのか。

そうですね。当たり前ですけど、私自身もチームが勝つために何をなすべきかを主体的に考えてやっていたいと思っています。三浦さんに言われたことだけやっていたらいいのなら、私がここに来た意味がないですし、自分がどうこうというよりも、チームが勝つために必要だと感じたことがあれば三浦さんに伝える。あるいは選手に伝える、自分が動いていくこととはやらないといけない仕事だなと思っています。

今シーズンはいい選手ばかりでまさに精鋭揃いであり、ポジション争いが厳しいが、競争の結果、試合に出られない選手のケアについてはどう考えるべきなのか。

そこは真つ当にやりたいと思います。試合に出るためには、選手はやはりレギュラー争いをしないといけないですし。では「真つ当に」とは何なのかと言えば、練習から一生懸命やるとか、自分の全力を出し切る、そういうポイントを外してたらケアもなく、放っておくと思います。それは当たり前ですね。ただ、選手がその努力を真つ当にやっているなかで、何かここでアドバイスがあったら伸びそうだなという状態なのであれば、選手をサポートしたいと思っています。

強度がFC岐阜の課題だとされているが、強度なり運動量の豊富で、ハードワークといった要素、それを組織としてやっていくことは今シーズンの重要なテーマになるか。

正にこれからやっていきますけれども、三浦俊也監督はそういうものをはっきりさせて選手に提示することに長けています。まだ始まっていないので何とも言いにくいところですが、三浦さんはその辺りが上手い監督で、このチームがどうなっていくか個人的にも楽しみにしています。

めざすはフロント、強化、現場の三位一体。

みんなで勝利を喜ぶ

Morihiko YAMAJI



統括本部長
山道 守彦

今オフの補強でどのように勝算を立てたのか。

チームを強くする最低の条件とは、クラブがどこをめざすのかというはつきりしたメッセージを持つこと。ビジョンまでいかにしてもメッセージを発信することがすごく重要。現在は小松裕志社長を中心に「上に行きたい」というメッセージがはっきりと出ていますよ。それに対して強化の我々がどういう材料を揃えて現場に渡すか。

レストランに喩えれば、めざす方向性がその店にあり、すばらしい食材を用意して、一流のシェフが調理した結果、ミシュランの三星という評価にあらわれる。クラブのフロント、強化、現場、この三者が、距離を取りすぎるでも仲が良すぎるでもなく、適切な関係の三位一体を保つことが重要だと、私は過去の経験から考えています。

FC岐阜はJ2に上がることが一丁目一番地。そのために既存戦力を再検討し、三浦(俊也)さんのサッカーに合うパスをつくらせて、どうやって補強してチームビルディングをするべきか。今回獲得した選手は皆、基本的には移籍金なしで獲れています。

レアルマドリドやバルセロナ、日本であれば川崎フロンターレや浦和レッズのようなクラブを見れば明らかのように、チームの戦力を高く維持するにはお金が必要だという相関関係はある。その大前提で、公開されている決算で2020年度(2021年1月まで)の売上高(Net sales)が8億5,300万円のFC岐阜にあって「少し出血してでも(戦力を確保したい)」という発言を小松社長がするなかで、多少は昨年よりもチーム運営費を使っているけれども、ビッグクラブのような資金力には欠ける。

カテゴリーが下がると、25歳くらいの動き盛りの選手を獲得するのはなかなか難しい。J1から順に獲得するからです。そこで、経験が豊富な選手、かつ予算の範囲に収まる選手を、失敗したりぶついたり、あっちに行ったりこっちに行ったりしながらなんとか揃えたというのが現実です。

オフの補強に当たって重要なのはスピード感です。もう始動してプレシーズンが段階になってから所属が決まる安田理大のような例もあります。まずは自分たちの補強ポイントを明確にして各ポジションに二人の選手を置きたいというなかで、早めに獲得交渉に臨み、不調に終わりそうなら次のターゲットに行く。そうした話し合いやコミュニケーションによって戦力を揃えていくことが強化の仕事ということになります。

そのチームをどう運用しようか。

一方、現場では三浦監督や野崎コンディショニング・スパーバイザー、横山ヘッドコーチ、森永コーチ、工藤GKコーチといった人たちに来てもらって最適化を図っている。そうして強化の私と現場の三浦さんが話しながら三角形をつくる構図になっています。これに対して「岐阜は上がる」と思っているよね」というレピュテーション(評判)になっていると思います。それは、クラブが言っていることとやっていることがミスマッチになっていないから。

サッカーは丸いボールを使い、22人が複雑に動く競技なので、勝敗が下馬評とは逆に転ぶことがあるのは事実です。ノックアウト方式の大会ではジャイアントキリングが起きやすい。けれども、年間を通して戦うリーグ戦の最終的な順位には比較的、実力が反映されやすい。フロントがめざすもの、強化のマネジメント、現場の腕前の三位一体がしっかりして、且ついい選手が揃っていると順位は安定する。

そして勝負の神は細部に宿るので、コロナ対策などサッカー以外にまで襟を正して頑張っていかなければいけない。拮抗したリーグですから、ちよとしたこと、走る、戦う、諦めない、そういう基本をしっかりとやって、ディシプリン(規律)を守り戦術を遂行すること

とで、勝つ回数が多くなる。おそらく鹿島アントラーズが常勝軍団と言われた頃はそういう空気があったんでしょう。浦和レッズにもACLを獲ったときには必然的にそういう空気が生まれていました。そういうものをこのクラブに、チーム全体に浸透させ、勝てる集団にしていきたい。始動までの段階ではその第一歩の作業をしています。

補強して揃えたものを、さらにどう鍛えていくかが大事か。

そうですね、その点で言えば、いま野崎トレーナーに来てもらって、けがをしない身体をつくり、土台を大きくする作業に、フィジカルチームとともに着手しています。そういうことも新しい取り組みとしてやっている。服部康平のように高いポテンシャルを備えた選手がけがなく一年出来たら、大きな戦力になると思います。まず身体が土台をいかにつくってその先のサッカーに繋げるか。「新化」というスローガンを掲げさせていただきましたけれども、これも新しく変わることの表れです。小松社長の陣頭指揮の下、新しいことを実際にやって、その波状効果で生まれ変わろうという雰囲気をつくっていききたい。

今季、まとまっていってハハハの重要性も叫ばれているようだが。

私は「よし、みんなで元氣出していこうぞ!!」と声をかけるのが好きな人間なんです。みんなでやればすぐ終わる後片付けのようなことも含めて、みんなでやりたいという考えが素地にある。みんなが協力する。みんなで勝つ。みんなで勝つたからこそ喜びは大きい。みんなが同じことを考えてみれば、たとえばコロナ対策でも、マネージャーだけが消毒作業をするよりもみんながやるほうが早く終わりますし、掃除をしなくても誰かが段取りを忘れていても、誰かが換気をしていないことに気づいて窓を開けたりして、一人でやるよりも見落としが減り、いい結果に繋がると思うんです。ふたつではなく30個、60個の眼で見れば細部までいろいろなことがうまくいけると、私は考えています。そうした姿勢も伝播させていければと思います。

2022 SEASON J3新規参戦チーム紹介

2022シーズン、J3に新たに加わった5チーム

2021 SEASON J2 19位

SC相模原

神奈川県

ホームスタジアム: 相模原ギオンスタジアム 監督 高木 琢也

大量20人が退団し、15人が移籍加入。そのうちJ3からの移籍は中島賢星だけで、他はみなJ1、J2からやってきた。SC相模原が一年でのJ2復帰を狙っていることは間違いない。このうち鎌田次郎や高山薫は期限付き移籍から完全移籍への切り替えて、既にチームに馴染んでいる。つまりある程度の継続性もあるわけで、大量補強=即失敗という公式も考えにくい。32試合出場の内9番コウリやチーム内得点王藤本淳吾も残り、なにより昨季途中で就任した高木琢也監督が続いていることで、ベースがゼロではないところがポイントだ。3バックは前述の鎌田と川崎裕大が残留しているので、ここに元日本代表としてオシム千葉の水本裕貴が加われば完成する。新加入選手は攻撃のタレントが魅力的。中盤に仙台の中原彰吾と岐阜の中島、前線に千葉の船山貴之と東京から育成型期限付き移籍の野澤零温が加わり、藤本や高山との組み合わせ次第では爆発的な力を発揮する。



中島 賢星 選手
2017-2021シーズン
FC岐阜在籍

2021 SEASON J2 20位

愛媛FC

愛媛県

ホームスタジアム: ニンジニアスタジアム 監督 石丸 清隆

新監督は2013と2014シーズンにも指揮を執っていた石丸清隆。現役を終えたクラブもこの愛媛という縁深いOBの復帰で再出発を図り、まとめることが出来るか。選手に目を移すと、岡本昌弘が鳥栖、加藤大智がG大阪に移籍したゴールキーパー陣は、国見高校の出身で長くJ1で活躍した徳重健太の獲得で差し引きゼロと言ったところ。発表は長崎からの徳重加入のほうが岡本の移籍より一日早かったが、ほぼ同時進行だったのではないかと推測される。最終ラインは山形から期限付き移籍していた栗山直樹が完全移籍への切り替えとなり、引き続きディフェンスリーダーとなりそう。また3バックの両端でもサイドバックでも機能する森脇良太の加入でシステム運用も幅が出てきそう。中盤はくしくも仙台アカデミー出身の茂木駿佑と佐々木匠が同時に加入。また千葉から矢田旭も加わり、支配力は高そう。C大阪から松田力を獲得して得点力も計算出来、優勝も狙える強力な布陣。

2021 SEASON J2 21位

ギラヴァンツ北九州

福岡県

ホームスタジアム: ミクニワールドスタジアム北九州 監督 天野 賢一

小林伸二前監督がスポーツダイレクターに専念し残留、天野賢一前ヘッドコーチが昇格で新監督に就任することとなった。ギラヴァンツ北九州が降格した責任のすべてを小林前監督が負う必要はなく、放逐すれば貴重な人材の損失になると強化の役職が残ったことはむしろ朗報だろう。クラブの規模的にもJ2とJ3を行き来してしまっているが、基盤を強化するターンのに入ったと考えるべきではないか。福森健太や高橋大悟といった貴重なタレントが所属元に復帰(福森はそこから栃木に期限付き移籍)したが、魅力的な選手が多数加入している。中盤では昨年福島で24試合に出場した浦和の池高暢希、東福岡高校の10番だった磐田の藤川虎太郎がそれぞれ期限付き移籍でやってきた。最終ラインにはFC東京U-18時代に日本一を達成した順天堂大学の長谷川光基が新卒で加入。同時に加入した藤原広太郎はアカデミーの大先輩。コンビで守備力を高めていこう。

2021 SEASON J2 22位

松本山雅FC

長野県

ホームスタジアム: サンプロ アルウィン 監督 名波 浩

松本山雅FCは不安が募る状態で降格を決めた。フロントは責任問題で揺れ、名波浩監督の手腕には疑問符がついた。このマイナスイメージを払拭出来るかどうか今後のクラブ全体の動向にも関わってくる。昇格だけでなく未来をかけた重要なシーズンとなってしまった。とはいえ、名波監督には優秀な副官として三浦文丈コーチがついていて、選手にもビクトル、三ツ田啓希、田中パウロ淳一といったFC岐阜サポーターにはおなじみのタレントが揃い、現場の力は低くはないと見る。加入選手のほとんどは期限付き移籍先からの復帰で新鮮味には欠けるが、その分順応には時間がかからずチームの芯はつくりやすいだろう。補強の目玉は安田理大とパウリーニョ。昨年、安田は千葉で35試合、パウリーニョは岡山で30試合に出場して試合動向に問題はない。いい戦力だがただ、愛媛や相模原、岐阜のようなインパクトには欠ける。J3沼に嵌まる危険性は高いのではないかと推測される。



ビクトル 選手
2017-2019シーズン
FC岐阜在籍

三ツ田 啓希 選手
2021シーズン
FC岐阜在籍

田中 パウロ 淳一 選手
2016-2018シーズン
FC岐阜在籍

2021 SEASON JFL 1位

いわきFC

福島県

ホームスタジアム: Jヴィレッジスタジアム 監督 村主 博正

クラブの策としてフィジカルの向上に努めていることが最大の特長とあって、2022シーズンのJ3でもっとも実力が読みにくい存在がこのいわきFCだろう。育て上げたJFL優勝メンバーのうち12人が退団したものの、先発していた主力メンバーはほとんどが残っていてある程度の勝利数は計算出来る。ゴールキーパーは4人中3人が入れ替わったが主力級の坂田大樹が残り長野から移籍加入の田中謙吾と正位置争いの構図。フィールドプレーヤーでは流通経済大学の長身センターバック家泉怜依、同じく流通経済大学出身のドリブラー永井颯太、作新学院大学からやって来たサイドハーフ杉山伶央(FC東京U-18出身)、鹿島から移籍の有馬幸太郎らが肉体を強化すれば上積みになる。パテランの多いFC岐阜としては、走れるいわきに対して、球際で負けず、かつ賢いゲーム運びでいわきを上回るようにしたいところだ。

J3 NEWCOMER TEAMS

2022 SEASON FC GIFU TOP TEAM PLAYERS

プレースタイル特集

MY PLAY STYLE

2022シーズン開幕前に全選手から自身のプレースタイルを聞きました!

1 GK 岡本 亨也

相手のシュートを止める
ところ、足元のプレー
に注目して下さい。



19 GK 桐畑 和繁

沢山のシュートを止めて
チームの勝利に貢献
します。



21 GK 松本 拓也

最後尾からの声であつたり、
最後まであきらめない
姿を観てください。



31 GK 大野 哲煥

キック力を活かしたロ
ングフィードや、力強
いセービングに注目し
て下さい。



2 DF LEANDRO FREIRE

どんな状況でも最後まで
勝利を目指します。
チームの為に常にベ
ストを尽くしますのでそ
こに注目してください。



4 DF 橋本 和

左足からのクロスで4
アシストと右足の
シュートで4得点を
目指します。



6 DF 岡村 和哉

対人プレーに自信があ
ります。いい攻撃をする
ためのビルドアップな
ども見て欲しいです。



17 DF 藤谷 匠

身体能力を活かした
守備を観てください。



18 DF 服部 康平

対人やヘディングが持ち
味です。最終ラインから
盛り上げていきます。



22 DF 船津 徹也

上下運動や誰にも負
けたくない気持ちを全
面に出してプレーし
ます!応援よろしくお
願いします!



26 DF 小山 新

昇格の為に、守備では
統率力を持って球際
や対人で相手に負け
ず、攻撃ではフィード
で活躍します。



27 DF 本石 稔

左足のキックとスピー
ドを活かしたプレーに注
目して観てください。



5 MF HENIK

サポーターの方々に献
身的な守備と粘り強い
ボール奪取力そして勝利
に向けていつも貪欲な所
を見てください。



8 MF 宮日 稜

スピードとドリブルに
自信があるので、そこ
を注目してください。



10 MF 庄司 悦丈

長足の正確なパスで試
合をコントロールする
ところを観てください。



11 MF 吉濱 遼平

左足のキックが武器
なので、左足からのパ
スやクロス、FKを観
てください。



14 MF 本田 拓也

スライディングでボール
を取る所を見て下さい。



23 MF 大西 遼太郎

ピッチを走り回り相
手の攻撃の芽をつむ
ボール奪取を見てくだ
さい。



25 MF 生地 慶亮

左足でのドリブルと
ボールキープでチャン
スを作るところに注目
して下さい。



29 MF 松本 歩夢

スピードを活かしたド
リブルが得意です。



30 MF 宇賀神 友弥

攻守において気持ちの
こもったプレーを観に
きてほしいです。共に勝
利を味わいましょう!



32 MF 山内 彰

運動量が豊富で中盤
での守備や寄せの速
さやボールの展開など
が得意です。



33 MF 石坂 亮人

攻守両方の運動量と
パス、ドリブル、シュ
ート全てのアイデアを
注目してください。



42 MF 柏木 陽介

視野の広さとキックの
精度を見てください。



44 MF 菊池 大介

球際の強さ、走力、
チャンスメイク力を強
みにしています。



7 FW 阿田 遼馬

スピードに乗ったドリ
ブルが得意で自分のス
トロングなので、皆さん
そこに注目して下さい。



9 FW 山内 寛史

前線で体を張って起
点になること、ゴール
前で反転シュートをみ
てもらいたいです!



15 FW 田中 頌也

左足のシュートとポ
ジショニング



16 FW 富樫 佑太

ゴールに絡むドリブル・
パスを観て下さい。



38 FW 藤岡 浩介

シュートと動き出し
と、ゴール前での嗅覚
です。



39 FW 畑 潤基

一試合通して走り続
け、ボールにくらいつ
いてゴールに向かうと
ころを観てください。



45 FW 木カ チャールス

ポストプレーや背後の
抜け出しでの攻撃の起
点になる所と点にから
む所に注目して下さい。



※選手の氏名は直筆です。

5期メンバーの紹介

NEW

SEINA

今季からGGGの一員として活動させて頂くSEINAです！笑顔と元気いっぱいのパフォーマンスをお届けできるよう精一杯全力で頑張っていきます！1年間よろしくお祈りします！

LALA

今年もGGGとして活動させて頂けることになりました！本当に嬉しいです。去年までとは違った自分を見せられるよう、頑張ります！

今シーズンもGGGとしてFC岐阜を全緑で応援します！皆さんと一緒に盛り上げていきましょう！FC岐阜ファミリー最高！！

NEW

NANAO

いつもGGGを応援してくださってありがとうございます！！今季からGGGのメンバーとして活動させて頂くことになりました！初めての経験で、慣れない事や不安なことも多いですが、皆さんと一緒にFC岐阜を盛り上げていけたら嬉しいです！1年間精一杯頑張ります！よろしくお祈りします！！

SAYAKA

今シーズンもGGGとしてFC岐阜を応援させていただきます！皆さんと共にチームを後押しできるように、感謝の気持ちを忘れずに精一杯活動していきます！よろしくお祈りします。

KOTOMI

今シーズンもGGGとして皆さんとFC岐阜を応援することが出来るのが本当に嬉しいです！GGGとしても個人としても今年新しいことにどんどん挑戦して皆さん楽しんで頂けるように頑張るので今シーズンも応援よろしくお願いします！今年は絶対にJ3優勝、J2昇格しましょう！！

NAO

今季もGGGとして活動させて頂くことになりました！3年目ということで、より一層レベルアップした自分、GGGをお見せできるように頑張ります。一緒にFC岐阜を盛り上げましょう！よろしくお祈りします！

COCONA

今シーズンからGGGとして活動させていただくことになったCOCONAです！皆さんとFC岐阜を応援できることがとても嬉しいです！たくさん笑顔と元気を届けられるよう精一杯頑張ります！よろしくお祈りします！

AIRA

今シーズンもGGGとして、FC岐阜を盛り上げます！！一緒に全緑応援しましょう！1年間宜しくお願いします！

WAKANA

今シーズンもGGGとして活動させて頂く事になりました！2年目という事で昨年よりも更にパワーアップした私で皆さんに元気と笑顔をお届けしたいです！今年も1年間よろしくお祈りします！J2昇格に向けて一緒に全力で応援しましょう、今年も頑張れFC岐阜！

HINA

後援会からのお知らせ

2022 FC岐阜後援会
2022.2.1 - 2023.1.31

会員募集中

Private (個人) 会員

年会費 1口 **5,000円** (複数口可)

Corporate (法人) 会員

年会費 1口 **30,000円** (複数口可)



©NORICO/Orentano

FC岐阜公式HPから入会申込が出来ます



みんなの力で
FC岐阜を強くしよう!!

会員特典

Private (個人) 会員・Corporate (法人) 会員 共通

- 会員証の発行
- ホームゲーム観戦チケット料金の割引
※当日券を前売券価格で購入できます ※小中高・学生は対象外となります ※他の割引との併用はできません ※一試合当たり2枚までとなります
- 会報誌オレンターノPRESS発行 (郵送)

Private (個人) 会員

- ホームゲーム招待券2枚/口 (メイン自由席招待券)
※ご利用を制限させていただく場合がございます

口座振替会員・複数口会員限定

- FC岐阜コラボグッズを進呈
※2022シーズン公式戦終了後にお届けいたします



Corporate (法人) 会員

- ホームゲーム招待券5枚/口 (メイン自由席招待券)
※ご利用を制限させていただく場合がございます

- FC岐阜公式ホームページへの社名掲載

口座振替会員・複数口会員限定

- FC岐阜コラボグッズを進呈
※準備が整い次第お届けいたします
おれん太くん+ギッフィー
ダイヤカットパーペーウェイト
(80x80x20mm/3D加工)



読者プレゼント

リーグ加盟15周年を記念して15名の方に抽選で
サインボールと応援のど飴をセットでプレゼント!

FC岐阜選手サインボール & FC岐阜応援のど飴

15名様



どの選手が当たるかは
当選してからのお楽しみ!!

【応募締切】令和4年5月2日(月) 当日消印有効

※当選発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

読者プレゼントの応募方法

郵便番号・住所・氏名・電話番号・法人会員名・本誌のご感想・ご意見をご記入の上、ハガキ・FAX、メールでご応募ください。

※ご応募のため、ご記入いただきました個人情報はFC岐阜後援会が適切に管理し、本誌に関する応募業務にのみ使用させていただきます、その他の業務に転用することはありません。

2022 FC GIFU GAME SCHEDULE

節	開催日	キックオフ時間	対戦チーム	節	開催日	キックオフ時間	対戦チーム
1	3/12(土)	13:00	Y.S.C.C.横浜	18	7/23(土)	19:00	カマタマーレ讃岐
2	3/19(土)	15:00	愛媛FC	19	7/30(土)	18:30	ガイナレ鳥取
3	3/27(日)	13:00	アスクラロ沼津	20	8/14(日)	16:00	FC今治
4	4/3(日)	18:00	ガイナレ鳥取	21	8/20(土)	19:00	藤枝MYFC
5	4/10(日)	14:00	カターレ富山	22	8/27(土)	18:00	愛媛FC
6	4/17(日)	14:00	松本山雅FC	23	9/3(土)	未定	Y.S.C.C.横浜
7	4/30(土)	14:00	カマタマーレ讃岐	24	9/10(土)	未定	AC長野パルセイロ
8	5/4(水・祝)	14:00	藤枝MYFC	25	9/17(土)	未定	ヴァンラーレ八戸
9	5/15(日)	19:00	SC相模原	26	9/25(日)	未定	いわきFC
10	5/29(日)	14:00	AC長野パルセイロ	27	10/2(日)	未定	福島ユナイテッドFC
11	6/5(日)	19:00	ヴァンラーレ八戸	28	10/9(日)	未定	カターレ富山
12	6/12(日)	14:00	鹿児島ユナイテッドFC	29	10/15(土)	未定	松本山雅FC
13	6/18(土)	17:00	福島ユナイテッドFC	30	10/23(日)	未定	アスクラロ沼津
14	6/26(日)	15:00	テゲバジャーロ宮崎	31	10/30(日)	未定	SC相模原
15	7/3(日)	19:00	FC今治	32	11/6(日)	未定	テゲバジャーロ宮崎
16	7/10(日)	19:00	いわきFC	33	11/13(日)	未定	鹿児島ユナイテッドFC
17	7/17(日)	18:00	ギラヴァンツ北九州	34	11/20(日)	未定	ギラヴァンツ北九州

ホームゲーム アウェイゲーム

◆すべてのスケジュールは予定につき、変更となる場合がございます。

後援会への入会・読者プレゼントの応募・
その他お問い合わせ先

FC岐阜後援会事務局

〒502-0817 岐阜市長良福光2070-7 長良川スポーツプラザ1F

TEL 058-233-2877 FAX 058-295-7866 e-mail:kouenkai@fc-gifu.com